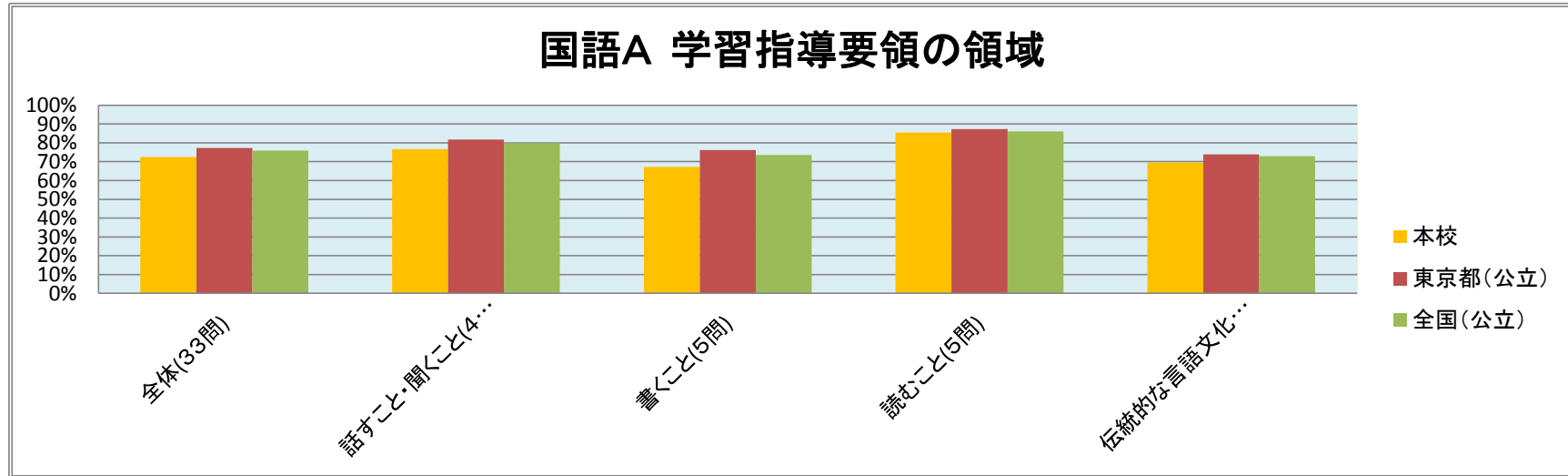


平成27年度 全国学力調査（国語）

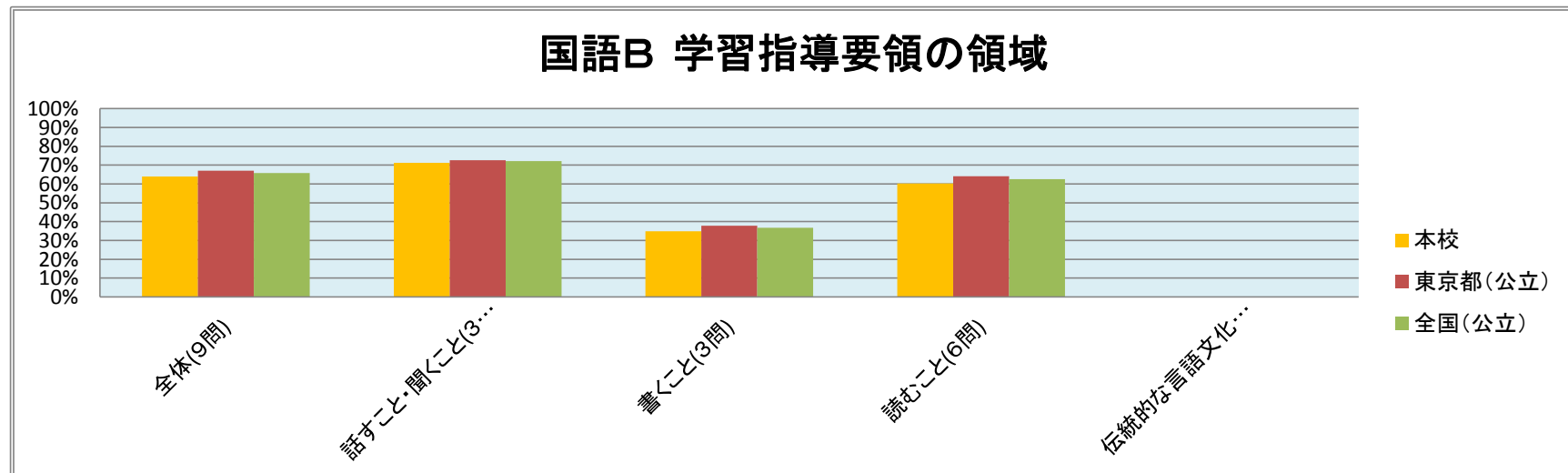
1. 分類ごとの平均正答率

(1)国語A:主として知識



- ①東京都・全国の平均正答率に比べ、すべてに関して下回っている。
- ②特に「書くこと」が苦手である。

(2)国語B:主として活用



①東京都の平均正答率に比べ、すべての観点で下回っている。

2. 調査問題から見た課題

(1)話すこと・聞くこと

- ①状況に応じて、資料を活用して話す。
- ②資料の掲示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く。

(2)書くこと

- ①意見を支える根拠について着目する。
- ②書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く。
- ③伝えたい事実を明確に書く。
- ④伝えたい事柄が読み手に効果的に伝わるように書く。
- ⑤複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。(正答率19.2%)
- ⑥文章の構成や展開を踏まえ、自分の考えを書く。(正答率27.2%)

(3)読むこと

- ①表現の特徴を捉える。

(4)伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ①比喩や反復など表現の技法について理解する。
- ②文脈に即して漢字を正しく書く。(例)余ったお金を貯金する。
- ③文脈に即して漢字を正しく読む。(例)詳細に述べる。
- ④語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。
(例)討論の口火を切る。縁の下の力もち。たなびく雲の間。
- ⑤単語の類別の理解。(例)「青い」(形容詞)と「青さ」(名詞)の違い。
- ⑥手紙の書き方。(例)手紙の後付けでは、相手に敬意を示すため、高い位置に相手の名前を書く。
- ⑦漫画の内容を参考にして、古典の登場人物の思いやもの見方を想像する。
- ⑧代表的な古典作品に関心をもつ。(例)「竹取物語」と解答できる。

3. 指導改善のポイント

(1)話すこと・聞くこと

- 相手は目的、状況の応じて話す指導の工夫。
 - ・相手に分かりやすい言葉を選択することや言葉遣いなどの知識を活かす指導。
 - ・資料や機器の効果的な活用をする指導。
 - ・敬語を適切に使う指導。
 - ・日常的に、聞いただけでは意味が分かりにくい言葉や日常生活で使用する事の少ない言葉についての知識を増やす。

(2)書くこと

- つかえたい事が相手に伝わるように書く指導の工夫。
 - ・分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現したい内容にもっともふさわしい語句を選ぶよう指導。
 - ・書いた文章を互いに読みあい、内容に過不足がないか、使用語句が適切かなどについて検討するよう指導。
- 根拠を明確にし、自分の考えを書く指導の工夫。
 - ・自分の考えの根拠が明確に書かれているかどうかを読み返す指導をする。
 - ・根拠となる内容が適切に取り上げられているか、接続語の使用や段落構成を工夫することで分かりやすくなっているかを指導する。

(3)読むこと

- 多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ指導の工夫。
 - ・複数の本や資料から得た情報を、真偽や適否を見極めるとともに、内容を自分と結び付けて考えるように指導する。
 - ・学校図書館やインターネットを利用し、目的や意図に応じて主体的に情報収集する学習活動を取り入れる。

(4)伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫。
 - ・辞書などを使い、なじみの薄い語句や使用頻度の低い漢字を積極的に調べる企画を設ける。
 - ・文脈に即した適切な言葉や、目的に沿った言葉づかいを検討する学習を行う。